

## 社員の不安は後回し！！ いくつかの質問に答えず、手順変更を強行！！

7月3日より大阪仕業検査車両所では仕業・申告作業のやり方が一部変更となりました。これまで、断路器の「入」「切」の連絡は作業者が班長にテレスピを使用して行っていました。しかし、今回の変更ではテレスピは使用しません。作業者が車内でブレーキ設定器を投入したまま抜きとらず、スマホを使用して、断路器担当の班長と断路器の「入」「切」のやり取りをすることになりました。

6月の下旬より行われた説明会では、社員からいくつかの質問や不安点があがりました。その中で、「ブレーキ設定器を投入したままスマホで班長とやり取りすると、ブザーの音などで、班長の声が聞こえにくいのではないか？」「0番線の屋根上などでは、スマホがつながりにくかったりするのにも、もし断路器担当の班長とスマホで連絡出来ない場合はどうするのか？」という質問が出ました。

会社からは具体的な回答はなく「今後も検証します」とだけの解答でした。

実際に仕業・申告作業に従事した社員からは、今回の作業のやり方の変更で「空パンでVCBを投入する危険があり、ミスすることを一番心配している」との声が上がっています。

これまでも、何度もこのミスは繰り返されています。

そのたびに検討されて手順書が作成され、作業手順の変更も行われてきました。

しかし、それが今回の変更では色々な手順が省かれ、危険性がさらに高まります！！

人間にはヒューマンエラーは付き物です。

その為に作業者同士が注意し合い、大きな事故に繋がらないようにすることが大切です。

会社が効率化のために、肝心の確認作業をひとりの作業者にまかせっきりになっているのは、すべての責任を作業者に押し付けようとしています。

会社がヒューマンエラーを防止するというのを大切に思うなら、エラー防止のために二重三重の対策をして、実際に作業をする現場社員による検証と意見を聞いてからやるべきです。

**私たちは社員の意見を聞き、安全に安心して働ける職場を追及していきます！！**